とみちからの栽培 ごよみ（JA米生産基準）

収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり株数（株）	24
1株当たり穂数（本）	19
㎡当たり穂数（本）	456
平均1穂籾数（粒）	65
㎡当たり籾数（百粒）	296
登熟歩合（%）	81
玄米千粒重（g）	22.5
㎡当たり最高茎数（本）	600
有効茎歩合（%）	76
10a当たり収量（kg）	540

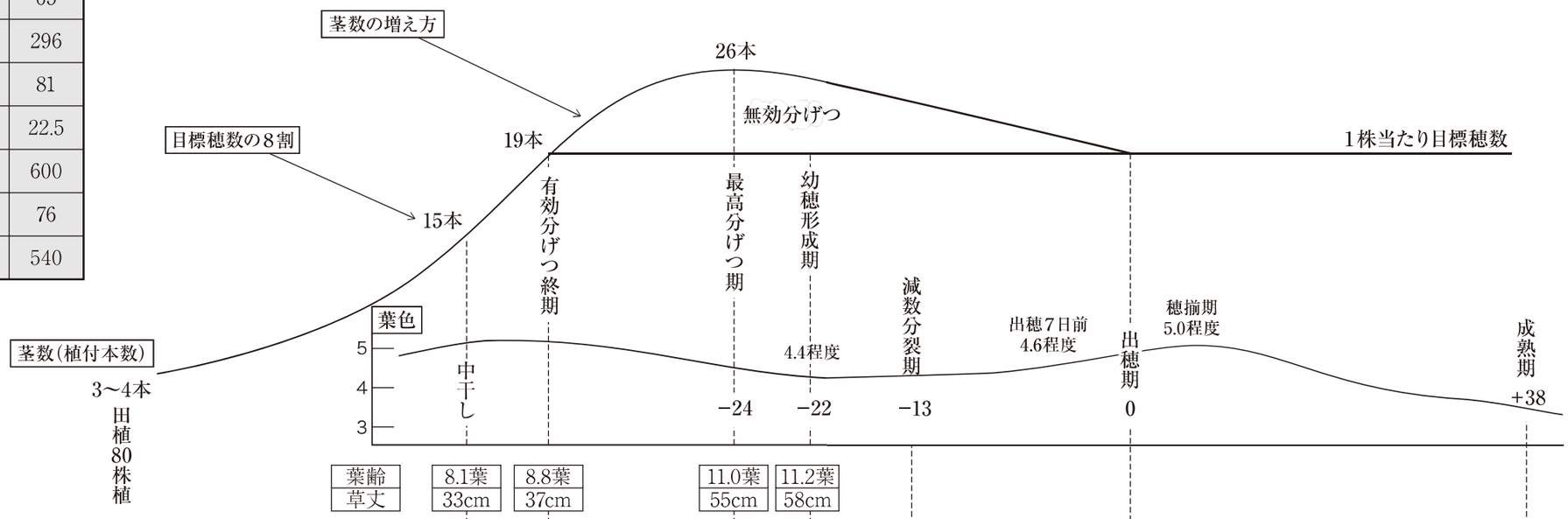
栽培のポイント

①健苗育成（十分換気を行い硬い苗を作る）
②80株植えの徹底、3㎝の浅植え
③初期茎数の確保
④1回目の穂肥は遅れずに：幼穂長1㎜
⑤紋枯病の発生に留意
⑥出穂後20日間の湛水管理の徹底

水管理のポイント

	目安
田植日	5月 3日
やや深水管理	5月 3日～5月 7日
初期除草剤散布	5月 3日～5月 5日
体系是正剤散布（初期剤使用の場合）	5月13日～5月17日
体系是正剤散布	5月 3日～5月11日
浅水管理	5月 8日～5月28日
軽い田干し（2日程度）	5月10日～5月12日
落水（軽い田干し）	5月29日
溝切り	5月31日～6月 3日
中干し	6月 4日～6月13日
間断かん水	6月14日～6月23日
飽水管理	6月24日～7月15日
湛水管理（出穂期）	7月16日～8月 4日
間断かん水	8月 5日～8月15日
落水	8月16日～

※中後期除草剤は残草の種類をみて随時散布する



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	5/3	6/4 6/8	6/22 6/24	7/3 7/16	8/23		
生育期区分	育苗期	田植期 / 活着期	有効分げつ期 / 無効分げつ期	稲体組織充実期 / 幼穂形成期 / 穂ばらみ期	登熟期	収穫期	土づくり
水管理	深水管理	浅水管理	溝切り、中干し / 間断かん水	飽水管理	湛水管理 / 間断かん水		

栽培管理のポイント

浸種を徹底してよい苗をつくる
◎浸種初日は水温12.5℃を確保し芽出しを確実に行う。
○種籾は1箱当たり120gを播き、苗箱は、10a当たり24枚を目安とする。
○田植にあわせた育苗計画を立て老化苗にしない。

適切な田植えに努める
○苗箱施薬剤を均一に散布する。（50g／箱）
○株数は坪当たり80株植えとする。
○荒天時の田植は避ける。
○1株の植付本数は3～4本とする。
◎3㎝の浅植えとする。

良質な茎を早く確保する
○田植後4日間はやや深水管理を行い、活着を早める。
◎活着後は浅水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分げつを促進させる。

適切な中干しの徹底
○中干しは溝切り後直ちに開始する。
○茎数が少ないほ場では中干しを遅らせる。
○溝の手直しを行う。
○中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。
○溝切りは遅れずに、5月末に行う。
○高温により藻が発生したり田がワク場合には水の入れ替えを行う。
○根の発育を促すため、2日程度の軽い田干しを行う。

穂肥は遅れずに施用する（分施）
◎幼穂形成期以降は飽水管理を行う。
○1回目の穂肥は幼穂長1㎝で行う。
○2回目・3回目は1週間おきに施用する。
○幼穂の発育中気温17℃以下が予想される場合は、不稔粒の発生を防ぐために深水にする。
○畦畔・農道の草刈りを徹底する。

紋枯病防除の徹底
○昨年紋枯病が発生したほ場では、穂ばらみ期に防除を行う。
○紋枯病が発生した場合は直ちに防除を行う。

適切な葉色に誘導する
○出穂7日前の葉色が4.5以下の場合は直ちに追肥を10kg／10a施用する。
○穂揃期は5.0程度の葉色を目標とする。

稲体の活力維持
○胴割米の発生防止と力ドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間の湛水管理を徹底する。

いもち病・カメムシ類防除の徹底
◎基本防除を徹底する。
○カメムシの発生状況に応じて3回目の防除を実施する。

落水を急がない
○刈取予定日の5～7日前までは間断かん水を行う。
※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。
○フェーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。

籾の黄化率80～85％程度が刈取時期
○刈取適期表示を目安に刈取を行い、胴割れが発生しやすいので刈遅れのないようにする。

地力増強に努める
○土壌診断に基づく土づくりの実施。
○シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。
○稲わらの腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。
○雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。